

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 10 月 30 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490900051
法人名	有限会社トッツ
事業所名	グループホーム笑顔くい
所在地	三原市久井町下津1614番地1 (電話) 0847-32-5143
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 1 日
評価結果市町受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島
所在地	広島市東区福田1丁目167番地
訪問調査日	平成 28 年 10 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

自然豊かで穏やかにのんびりゆったり過ごして頂ける。
同一敷地にはデイサービス、小規模多機能ホームが併設されており
イベントの合同開催や多職種との連携体制があります。又、定期的な行
事や買い物を通して地域交流を図る機会もあり、そして敷地内での畑で
は手作りの野菜を育てており食卓でも楽しむことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

山、川、田園が見渡せる自然豊かで静かな場所に立地する事業所である。
地域の主要道路沿いにあり、駐車場が広く、車でのアクセスが便利である。
デイサービス・小規模多機能事業所が併設されており、地域の介護サービスを
支える拠点でもある。
開設から8年を過ぎ、職員の経験も豊富である。特に食生活は家庭菜園の野
菜や地域の食材を使った職員手作りが中心で、家庭的なサービスが提供され
ている。
当グループホームは2ユニットの設備があるが、職員不足から現在は1ユニット
に縮小して運営されている。職員の雇用も含めて、地域と共に互いに支え合え
る事業所づくりを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼時に企業理念と事業所理念を全員で唱和しており、日々の業務に活かしています。	企業理念「人と人との心の絆を大切に、温かく優しくそして夢の持てる地域・社会づくりに貢献致します」、事業所独自理念「ひだまりのような暖かさとおのぼりとした優しさ溢れる空間づくりを目指します」を掲示し、職員が毎朝唱和して共有し、理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事へ出向くことは困難になってきていますが、事業所内でイベントを計画したり商店へ買い物に行くなどし地域交流を図らせていただいています。	町内清掃に参加したり、お祭りに招待を受けるなど地域活動に参加している。また、事業所で開催する秋祭りや敬老会には地域の人や家族・ボランティア等関係者に参加いただいて交流している。日々の生活の中でも近所への買い物や散歩などを通じて近隣の人々との交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	行事等への参加を地域の方がにもお願いしており、支援内容の方法や理解に努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	偶数月に開催している、運営推進会議で現状報告や活動内容などを紹介したり様々な意見交換をしサービス向上に努めています。	年6回開催し、家族・市役所職員・地域包括支援センター職員・民生委員・町内会区長・駐在所警察官・近隣スーパー店主に参加いただいて、現状報告や活動状況紹介を行い、アドバイスなどを頂いている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	町が主催している介護関連勉強会や運営推進会議を通して連携を図らせていただいています。	市職員に運営推進会議に参加していただき、良い関係づくりがされている。毎月開かれている「久井町関係機関連絡調整会議」に参加し、市や同業者とも交流し、協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内研修でも身体拘束をしないケアの勉強会を計画実施しており、具体的な行為を正しく理解できるよう努めています。日中は玄関等解放しており必要時には職員の見守りで対応していますが夜間は防犯上の都合で施錠はさせていただきます。	法人の必須研修科目として指定されており、身体拘束をしないケアについて毎年事業所内研修が行われ等、職員教育が徹底されている。日中は玄関に施錠せず、見守り・寄り添うケアが行われている。玄関前の事務所にも職員が常駐しており、安全が保たれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内研修で虐待防止についても実施しています。また日々の支援の中では言動についても意識を高く持てるよう職員間でも注意を払っています。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度等の制度についての研修は実施出来ていませんが今後の計画に取り入れ実施していきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	相談・見学・申込み契約は管理者が対応しており都度理解し納得していただけるまで説明させていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書にも苦情窓口を設置しており契約時には必ず説明させていただいています。また面会時や電話対応時にも意見や要望を聞けるよう努めています。	殆どの家族からは週1回～月1回の面会があり、報告と同時にご要望等もお聞きしている。また電話で行うこともある。重要事項説明書への明記やご意見箱設置等によりご意見・苦情等の受け入れ体制を周知させている。近年は毎月「笑顔くい新聞」を発行して、家族とのコミュニケーションにさらに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回の職員会議を通して日々の気付きや意見を話し合えるようにし日々改善に取り組んでいます。	毎月、全員参加の1H～2Hの職員会議を開き、意見を聞く時間を設けている。また、隣接事業所との管理者会議、法人の三原地区の管理者会議によって情報交換を行い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	自らの意見を言いやすい環境や、研修参加など呼びかけてはいるが業務上の都合もあり各職員の向上心につなげていない。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所内外への研修参加も促していますが業務上の都合もあり参加が困難になってきています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域連携会議や運営推進会議を通して管理者は同業者との交流を図っていますが介護職員は同業者と交流できる場は十分でない状態です。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談見学、ご入居までの間に本人様ご家族様のお話を傾聴し主訴の把握に努め信頼関係の構築に活かしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご入居までには必ず見学面談を行っており本人様やご家族様の主訴の把握に努め不安軽減に努め関係性の向上に活かしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現状とニーズの把握に努めて支援内容を検討しています。 支援継続が困難になってきた場合には支援内容を開始当初に戻し経過観察を行いながら進めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家庭的な雰囲気を大切に生活の中で共に楽しめるような関係性を築いていけるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には意欲的に現状報告や意見交換に努め不安軽減や共に支えられるような関係性構築に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご入居後も、馴染みの知人など来訪しやすい環境作りや外出行事などを計画することに努めています。	家族・友人知人から来訪いただいております、継続的な面会を支援している。また、家族の協力によって馴染みの理髪店やお墓参り等も継続していただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様への橋渡し、関係性の構築に配慮し孤立しないような支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今まで契約終了後の相談を受け付けたことはありませんが、必要に応じて関係機関と連携し対応させていただきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	ご入居者様の生活歴や意向など把握できるような書類の準備や聞き取れるような場づくりに努めています。	入居前に面談等で利用者・家族から思いや意向を聞き取ったり、所定の用紙に記入いただくなどして、把握に努めている。入居後わかったことも職員間で共有すると同時に記録して、介護計画に反映している。日々の暮らしの中でも食べたい物などを尋ねて意向に沿えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人様や関係者様から生活歴等を聴取させていただき支援内容に取り入れるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状の把握に努めている。	定期的にカンファレンスを行い状況の変化に合わせ支援内容の転換に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要の関係者と話し合い，それぞれの意見やアイデアを反映し，現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスを通して職員間で意見を出し合い計画作成に活かしています。	アセスメント情報、利用者・家族の要望、サービス担当者会議によって介護計画を作成し、家族の了解を得ている。毎月のケア会議および3ヶ月毎のモニタリング評価にて、継続か見直しかを判定し、現状に即した介護計画を策定し、サービスを実施している。	介護計画の目標期限を誤解の無いよう、表記されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録は日々の様子を記入したりまた特別な状態時には別紙の記録用紙も用意しており記入するようにしています。それらの記録を活かし計画の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況，その時々生まれるニーズに対応して，既存のサービスに捉われない，柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々に合わせて対応を柔軟に検討しています。またその為、日々の状態をご家族様に定期的に報告し円滑な対応が図れるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し，本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティア様の来訪や地域商店などの活用を取り入れて安心で楽しみの持てる生活を送れるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は，本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるように支援している。	契約時には必ず主治医の有無を確認させていただき必要時には主治医への受診を行っています。	契約時に医療受診支援について説明し、かかりつけ医を選んでいただいている。介護度の高い利用者には2週間毎の往診、介護度の低い利用者は月1回の通院、あるいは家族の協力による通院等によって受診支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師不在時には併設されている、デイサービスや小規模多機能ホームの看護師と連携し適切な処置が行える体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時には主治医や病院内の地域連携室と連携し対応できるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した場合や終末期のあり方についての指針を説明し理解を得ています。	契約時に書類「重度化した場合における対応に係る指針」を提示して説明し、家族の理解を得ている。必要な時期に家族や関係者と話し合い、必要な支援を行っている。	説明用書類に現在の事業所方針と異なる記述が残っているので適切な記述への早期訂正を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生対応マニュアルは事業所内に掲示しており初期対応については研修を定期的に実施させていただいています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練に年に二回事業所内で地域の方の参加していただき実施しています。また運営推進会議の際には有事の際の避難場所を確認するなど地域との連携も図っています。	年2回、隣接の小規模多機能事業所・デイサービスと合同の消防避難訓練を行っている。地元消防団や町内会役員等にも訓練に参加いただくなど、地域との協力体制も出来ている。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重しながら声かけをするように努めていますが、つい親しくなりすぎて言い方に配慮が足りない場面もあり、職員間でも注意をするよう気をつけています。	毎年、事業所内研修を実施して職員教育に努めている。普段も管理者から注意をしてサービスの質の維持に努めている。個人情報ファイルは鍵付き専用キャビネットに保管して管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様に分かりやすい声掛け、ペースで自己決定できる方法を探し実践するよう心掛けている。言葉での意思表示が難しい方には表情で気持ちをくみ取れるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの希望をお聞きし要望を実践している機会が少なくその人らしい暮らしの提供が十分ではないが、外出行事など計画し気分転換を図れるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問美容院を利用される際には本人様に希望を伝えもらえるよう声掛け支援を行っており、衣類の選択は出来るだけ自己決定を促しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節に合わせたメニューや自施設で採れた野菜を使用したメニューなど食事が楽しい時間になるよう努めています。 また、準備や片付けなど適宜協力をお願いするようにしています。	屋食のみ外部委託であるが、朝夕は利用者が育てた野菜などを取り入れながら、職員手作りの季節に合わせた家庭的な食事を提供している。職員も一緒に食卓を囲み楽しい食事風景となっている。下ごしらえや後片付けなどを手伝っていただいている。手作りおやつや外食なども企画して、食を楽しんでいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態に合わせて食事形態を工夫し提供させていただいています。 また摂取量も記録に残し体調面の管理に役立てています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアを誘導介助しています。 また訪問歯科とも連携を取っており必要時には訪問診療も行えます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を使用し個々の排泄パターンの把握に努め声掛け、誘導に活かしています。	排泄チェック表にて利用者の排泄パターンを把握して声掛けや誘導を行っている。夜間はリハパンとパット、必要に応じてポータブルトイレも設置して、個々の利用者に合わせて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取や運動の機会を増やし、なるべく自然な排便を促していますが、必要時には下剤を使用しコントロールさせていただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	確実な入浴の場を設けるため曜日を決めさせてはいただいているが、基本的には曜日に関係なく希望者には入浴の場を提供させていただいています。	毎日、入浴の準備をし、週3回以上を基準に声掛けをして入浴していただいている。担当職員や入浴時間帯を調整するなどして気持ちよく入浴していただけるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	大まかな一日の過ごし方は決まっていますが、その時々状況によっては静養して頂くなどの配慮に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	診療録にも薬の説明書を綴っており全職員が閲覧できるようにしている、また変薬時には注意点等説明するよう心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の支援の中から趣味や嗜好などを確認するように努めています。また外気浴や買い物等の外出を通して気分転換を図っていただけるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日の外出計画は困難なこともあり、屋外(敷地内)での外気浴や周囲へ散歩など屋外での活動も提供できるよう努めています。また近所のコンビニへおやつを買いに行くなど地域交流も図っています。	およそ週3回以上、散歩にお連れしている。気候の良い時期はおもてでお茶を楽しんでいただくこともある。コンビニやスーパーへ買い物にお連れしたり、家族や知人の協力で外出することもある。家庭菜園で野菜づくりをしていたりしている利用者もいる。お花見や紅葉狩りなどの外出行事も年間で6回ほど企画し、外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様の要望や本人様の認知度の問題もあり自己管理できているご入居者はいませんが、必要時には立て替え金を支払っていただくようしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望時には都度対応させていただいています。また本人様への手紙も施設で管理することなくやり取りを行っていただいています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせた飾り物を作って飾ったり、様々な刺激が苦痛にならないよう気配りを行っています。	駐車スペースからスロープを経由して玄関からユニット内までバリアフリーで移動できる。リビング兼食堂は広く明るく気温も程良い。大型テレビ、2つのテーブル、ソファを備え、対面キッチンと和室が隣接し、利用者は職員に見守られながら思い思いに過ごすことができる。リビングや通路には利用者手作りの作品や季節の花などが程よく飾られ、ゆったり穏やかに過ごせる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室に別空間を用意はしているが、使用頻度は少なく活用できていない。テーブルの席で過ごさせられることが多く必要に応じて職員が間に入るよう心掛けています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、使い慣れたものをお持ちいただくように伝えています。	介護用ベッド、クローゼット、エアコンが予め備え付けられている。使い慣れたタンスや生活用品、作品作りの材料などが持ち込まれ、利用者それぞれに部屋づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	お風呂・トイレ・表札など目立つよう表示しており、安心して利用できる環境整備に努めています。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

3 サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。
「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	☐	① 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		☐	② 利用者へのサービス評価について説明した
		☐	③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		☐	④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
		☐	⑤ その他（ ）
2	自己評価の実施	☐	① 自己評価を職員全員が実施した
		☐	② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		☐	③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		☐	④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		☐	⑤ その他（ ）
3	外部評価（訪問調査当日）	☐	① 普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		☐	② 評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		☐	③ 対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		☐	④ その他（ ）
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	☐	① 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		☐	② 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐	③ 市町へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		☐	④ 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐	⑤ その他（ ）
5	サービス評価の活用	☐	① 職員全員で次のステップに向けた話し合い、「目標達成プラン」を作成した
		☐	② 「目標達成プラン」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニター依頼した（する）
		☐	③ 「目標達成プラン」を市町へ説明し提出した（する）
		☐	④ 「目標達成プラン」に則り、目標を目指して取り組んだ（取り組む）
		☐	⑤ その他（ ）

2 目標達成計画

事業所 グループホーム笑顔くい

作成日 平成 28 年 11 月 1 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価をもとに職員一同で次のステップへ向けた取り組み目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎにならないよう、事業所の現状に合わせた取り組み課題を取り上げ、優先順位を決め目標達成に向けた具体的な取り組み内容を記入してください。

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点，課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	26	介護記録に表記してある目標期間に誤解を招く表記であり改善を行う。	介護記録の目標期間を誤解の無いように記載するとともに口頭でも十分な説明を行っていく。	都度、モニタリング再アセスメントを行い再プランを作成していく。	平成28年11月～平成29年10月
2	33	「重度化した場合における対応に係る指針」に事業所方針とは異なる記述が残っている為、ご本人・ご家族様に不安を与えている。	説明用書類を現在の事業所方針の記述に訂正しご家族様へしっかりと説明し同意を得ていく。	説明用書類を現在の事業所方針の記述に訂正するとともに十分な説明を行う。	平成28年11月～平成29年10月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。